

## 令和3年度 学校防災教育実践モデル地域研究事業

愛媛県立南宇和高等学校

### 1 取組の目的

- (1) 生徒が愛南町の地理的情報と災害について正しく理解し、危機意識を高め、自他の命を守るために主体的に行動できる能力を身に付ける。
- (2) 学校と教職員の災害時の役割を理解し、教職員の資質を向上させる。
- (3) 近隣校や地域住民、学校PTAを中心とした保護者との連携を深め、地域ぐるみで防災意識の向上を図る。

### 2 取組の内容

4月19日(月) 第1回防災避難訓練

全校生徒318名と教職員51名を対象とした、第1回目防災避難訓練を実施した。一次避難場所であるグラウンド、2次避難場所である旧愛媛県職員住宅へ避難し、避難方法・場所・経路・時間などを確認した。



7月28日(水) 緊急地震速報システムの導入

本校の放送設備と連動する緊急地震速報システムの導入が行われた。



8月4日（水） 防災先進地視察（高知県立大方高等学校）

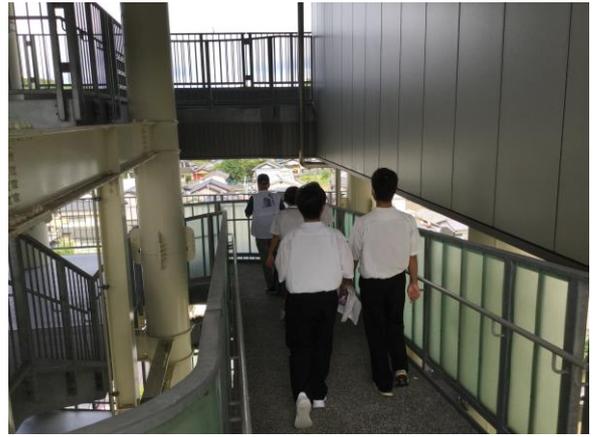
高知県黒潮町にある高知県立大方高等学校を視察し、個人の備蓄と役場の備蓄を学校で保管していること、避難所運営や保育園・小学校・中学校・地域など外部組織との連携など先進的な取組を説明していただいた。大方高校も避難所に設定されており、備蓄品数や高校生の運営方法など課題があることを教えてもらった。



8月4日（水） 防災先進地視察（黒潮町佐賀地区津波避難タワー）

黒潮町佐賀地区津波避難タワーを視察した。日本一大きいもので、海拔 25mのところに立っており、8階建の収容人数は約 230 人ということだった。建設費用、約 5 億 9 千万円と聞き、金額の大きさとタワーの大きさに驚いた。津波がこの高さまで数分で到達するのかと想像すると恐ろしくなった。この地区は、漁師町で、成人男性は、半年は漁に出ており、子供や高齢者、女性が協力し、避難することを想定して訓練しているということだった。

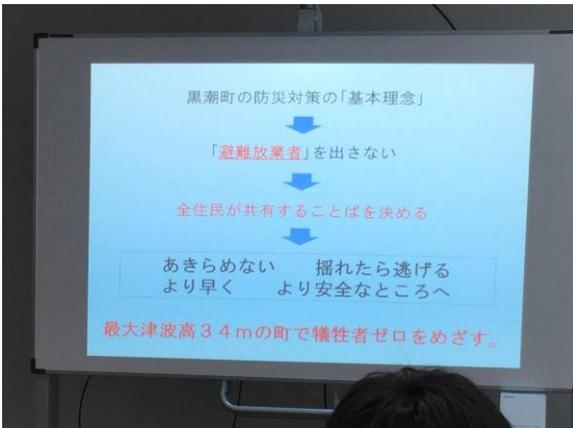




#### 8月5日（木）防災先進地視察（黒潮町役場）

防災先進地である黒潮町の黒潮町役場情報防災課を訪問し、南海地震対策係長の宮上様から黒潮町役場の取組を説明いただいた。避難放棄者ゼロ、犠牲者ゼロを目標に、地域と連携し、「自助」「共助」「公助」のバランスを大切に活動されていた。参加生徒の視察感想に、「100点満点の防災をすることはできなくても何もしなければ0点である」という言葉が印象に残っているとあり、今、自分ができること、準備できることを考えさせられた。





### 7月14日（水） 非常食（アルファ米）の試食

全校生徒・教職員を対象に、愛媛県から配布いただいた非常食の試食を行った。お湯と水の場合をそれぞれ、試食したが、やはりお湯で作ったものの方が美味しいという感想が、大半であった。簡単に作れ、味も想像していたものより良かったという生徒が多かった。普段の食事のありがたさも学ぶことができたと思う。



## 8月24日（火） 中高合同防災訓練

御荘中学校生徒会の生徒と先生に来校いただき、中高合同防災訓練を実施した。高知県黒潮町での防災視察研修で学んだことの発表、非常食の試食やお互いに学校が避難所となっていることから、段ボールベットの組み立てや強度の確認などを行い、実際の運営を意識した訓練ができた。コロナ禍であったので、少人数での訓練になったが、お互いに協力することの確認がとれた。



## 11月9日（火） 公開授業視察（愛媛県立北条高等学校）

今年度、本校と同じ研究事業を受けている北条高校の公開授業を参観させていただいた。福祉科では、福祉避難所を想定し、段ボールベットから車いすへの移乗、ホームルーム活動では、避難所運営ゲーム体験など学科の特徴を取り入れた内容が勉強になった。本校のホームルーム活動でも実践できるものを参考にしたいと思った。



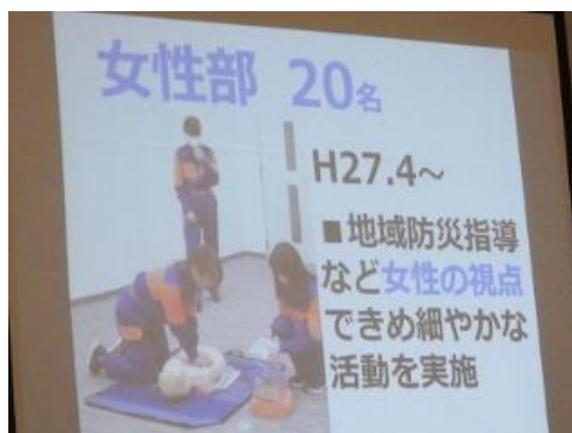
11月19日（火） 公開授業（愛媛県立南宇和高等学校）

防災に関するホームルーム活動の公開授業を実施した。災害協力シミュレーションをゲーム形式で学ぶ内容では、グループごとに積極的にコミュニケーションをとりながら教員からの情報に対して、臨機応変に対応するなど避難所運営を学ぶことができていた。1年生のクラスでは、避難所で想定される課題について話し合い、高齢者・障害者など弱い立場の人への配慮も考えることができた。



12月17日（金） 第2回避難訓練（予告なし訓練）

全校生徒と教職員を対象とした2回目の防災避難訓練を予告なしで実施した。今年度から導入した緊急地震速報システムを活用しての初めての訓練であったが、システム作動方法の確認ができ、避難状況も予告ありの1回目の訓練とほとんど変わらず、落ち着いて行動できていた。第1回避難訓練の反省から、担任のクラスごとの点呼、頭部を守る移動などを変更していたが、改善されていた。今までの実施されてきた地域や小学校からの訓練の成果であると感じた。消防団活動の紹介も学ぶことができ、校内だけでなく地域での活動も意識できるようになった。





### 3 取組の成果

今回の研究事業により、小学校・中学校・役場との連携が強固になり、お互いに顔が見える関係が今まで以上に広がったことが挙げられる。週一回行っている総合的な探究の時間では、1・2年生対象に、防災の研究チームを作り、ハザードマップや避難所運営の研究を行い、防災知識・防災意識が高くなった。愛南町消防本部からも何度も来校いただき、指導助言をいただくなど、実際に地震が起こったことを常に想定して行動できる生徒が増加した。防災士に挑戦する生徒もでてきており、今後も普段からの防災対策を継続したい。また、高知県黒潮町視察など直接現場に行くことにより、本音の声を聞くことができ、地震・津波が現実にかかること、起こった後のことを生徒・教員ともに意識できるようになった。校内の中核教員が組織化したことにより、防災知識の共有化が進んだ。

### 4 今後の課題

地震・津波による被害が、愛媛県で一番大きくなると想定されている地域であること、少子高齢化が進んでいる地域として、今後も、愛南町消防本部、小学校、中学校、地域と連携し、減災を目指す取組を継続していかなければならない。特に連携については、生徒・教員は毎年入れ替わり、情報の共有化が難しい面があり、今後の課題としたい。また、地震発生時刻や季節により、その後の状況が大きく変わることを生徒・教員がどこまで想定できているかが心配である。避難所運営では、感染症対策、女性目線での運営、プライバシーの確保など多くの課題について考えたい。今年度、実施した訓練、研修を今後も継続していき、いつか起こる自然災害に備えたい。